慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 地中海世界の旅人たち：中世から近世へ |
| Sub Title | The medieval and early modern travelers in the Mediterranean world |
| Author | 長谷部, 史彦(Hasebe, Fumihiko) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 2011 |
| Jtitle | 史学 (The historical science). Vol.80, No.2・3 (2011. 6) ,p.117(215)- 118(216) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | シンポジウム：地中海世界の旅人たち：中世から近世へ |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20110600-0117 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

シンポジウム

# 地中海世界の旅人たち

## ――中世から近世へ――

この記録は、慶應義塾大学言語文化研究所公募研究プロジェクト「前近代の地中海世界における旅をめぐる知的営為と記述」が二〇一〇年一一月二七日に三田キャンパス東館 G-SEC Lab に於いて開催した、公開シンポジウムの講演及びコメントの要旨である。

二〇一〇年度に開始したこの研究プロジェクトは、近代以前の「地中海世界」を対象地域として、旅や移動をめぐる人間の知的営為と記述について総合的に解明することを目的としている。ここでの「地中海世界」は、地中海の沿岸地域や島々のみならず、西アジア・北アフリカのイスラーム地域とヨーロッパ地域を合わせた広域を指して用いられており、一〇名のプロジェクト・メンバーも両地域五名ずつで構成されている。

西アジアと狭義の地中海世界は、周知のとおり古代から都市や交通の発展については世界の最先進地域の一つであり、そこでは人の移動や往来が抜群に盛んであったが、中世中期以降、アルプス以北地域の経済成長もあって地中海を挟む東西南北の諸地域間交流はさらなる広がりと深まりをみせていった。旅という空間移動の動機や目的は、富の獲得、軍事・外交、学芸や技能の修得、聖地・聖域の参詣、「驚異（ラテン語のミラビリア、アラビア語のアジャーイブ）」の探究、経済危機・戦乱・迫害の回避など実に多様であり、王や社会的エリート、商工民、農民、遊牧民、水上民、或いは女性やマイノリティなど多様な人々が異言語世界への旅の経験を重ね、旅をめぐる思考や記述を豊かなものとしていった。十字軍やレコンキスタなどの対立・紛争にもかかわらず、異文化世界へと越境し、旅する個人や集団による実践の総体

としての長距離移動の活性化は、新たな文化創造にとっても重要な契機となったといえよう。

このシンポジウムは、湯川武氏（早稲田大学教授／慶應義塾大学名誉教授、イスラーム史）と関哲行氏（流通経済大学教授、中近世スペイン史）の各一時間近くの充実した基調講演を受けて、分野を異にする研究者四名が具体例を取り上げつつ、それぞれの立場から自由にコメントを述べるかたちで進められた。全体として、「地中海世界の旅人たち」をめぐる問題群の所在を確認しつつ多面的な考察を重ねて、活気溢れる「知的営為」の時間となった。コメンテーターは、三沢伸生（東洋大学准教授、オスマン帝国史）、小澤実（名古屋大学グローバルＣＯＥ研究員、北欧史）、佐藤健太郎（早稲田大学准教授、マグリブ・アンダルス史）、神崎忠昭（慶應義塾大学教授、西洋教会史）の各氏であり、長谷部史彦（慶應義塾大学教授、アラブ史）が司会を務めた（所属情報は開催当時のもの）。そして、長時間に及んだ会にもかかわらず、三田の山に集った約八〇人の方々が中近世の地中海世界を想い、熱心に耳を傾けられていたこともここに付記しておきたい。

（長谷部史彦）